

平成15年度

若妻の翼報告会

旅の成果を報告 これからも自分探しの旅を



▲報告会では、翼団員手作りのパンとお茶もふるまわれました

若妻の翼パートII報告会
会は3月4日、深谷の老人いこいの家「やすらぎ」で行われ、団員らが旅の記録と感想を報告しました。

同事業は昨年9月22日から10月1日の日程で村内の既婚の女性15人をドイツ・デンマークに派遣、現地での研修を通して一人ひとりの価値観を大切にする生き方を学び、暮しを見直すきっかけづく

りを行われたものです。

報告会では、旅の行程に沿って話が進められ、現地での研修内容や派遣された団員らのそれぞれの感想などが話されました。中でもホストファミリーとの出会いを印象深く話す団員が多く、彼らとの生活がとても良い経験になったと話していました。報告会の終わりに「何の事故もなく無事帰っ

てきたことを喜びたい」とあいさつがされ、また、団員を代表して副団長の藤井美奈子さん（上飯樋）から「村、地域、そして家族のおかげで今回の旅ができ、いくつもの感動にであえた。この出会いと経験をもって何かを私たちらしくゆっくりと自分探しのたびを続けたいと思います」と感謝と決意が述べられました。

みんなのひろば

ここはみなさんが主役のひろばです。
身近な話題をどんどんお寄せください。

■役場企画室 TEL42-1613

劇団赤いトマト公演

夢あふれるお話を人形劇で

3月15日、ビレッジハウスにおいて春休み子ども読書劇場が行われ、船引町の劇団「赤いトマト」の大河原伸・多津子さんご夫婦が人形劇を行いました。

劇団トマトのお二人は昨年3月にも村を訪れ、楽しい劇を子供たちに披露しています。

劇団トマトの人形、舞台装置は全てが手作り、この日公演した「うさぎ物語」と「じっちゃんさんの言うことにまがいはいない」の2本も、手作りならではの暖かみのある人形を使って公演を行いました。

会場の子供たちは、夢あふれるお話に楽しそうに見入っていました。



▲子供たちも楽しそう

20の
リポート



武沢志衣さん

福島市在住
(章野出身)

◆私の中の飯館村

私が実家を離れてもう5年が経とうとしている。一見何も変わらないようだが、帰る度に新しいものができていて、それを見つけてうきうきする気持ちと、「いつの間にかほとんど変わっていくのではないか」と少し寂しい気持ちが入り混じる。

始めて家を離れた時、自分が井の中の蛙だったと身をもって感じた。その時はそれを田舎で育ったからだと思ってしまっ

た。けれどそれば間違っていたと徐々に気付いてきた。都会で生まれた人には田舎のことは分からないし、新たな環境に入る度にそう感じるものだと分かってきたからだ。昔は出身を聞かれると、言うか言うまいか迷っていたが、今では自分の村のことを話すようになった。友人や先輩が飯館を知っていたり、「飯館牛っておいしいよね」と言われると、まるで自分が肉牛を育てたかのように我慢してしまう。スーパーで飯館産の野菜があると「飯館ってすごいじゃない!」と思う。今ではこの村で育ったことは誇りだ。

時の流れとともに、変化するのは必然であるが、持ち味を失ってはいけないうと思う。また帰ったときに、やっぱりここはいいなあと思える場所であって欲しいと願う。

親子でデイサービスを体験

お年寄りの不自由さ実感

在宅介護支援センターと社会福祉協議会が主催

する「1日デイサービス体験事業」は、2月16日、いたてホーム内のデイサービスセンターで行われ、小学生の子供たちとその保護者ら20人がデイサービスのメニューの体験や、車椅子などを使っ

てお年寄りの体の不自由さを体験しました。

家族介護教室の一環として行われたこの事業は、体験を通して子供たちに介護に関する興味を持ってもらい、家族介護の重要性をわかってもらうのがねらい。

この日の午前中、介護



体験のようす



に関するお話を聞いた子供たちは、普段のデイサービスで食べているものと同じメニューの昼

食を食べ、午後からは血圧測定の後、車椅子に乗ったままでの入浴や、老人性白内障を体験できるメガネを付け、ベストや肘当てなどでわざと関節が動かないようにして実際にお年寄りの体の状態に近い状態での歩行などを体験しました。

体験を終えて子供たちは「お年寄りの気持ちがわかった」「お年寄りの体がかんなんに不自由なものだとは思わなかった」などと感想を話し、自分たちが思う以上にお年寄りが大変だということに気付いたようでした。

在宅介護支援センターと社会福祉協議会では、平成15年度もこの事業を継続させていく方針とのこと。

デーブ大久保さんを招いてスポーツ講演会

会場とのトークも交え「命の尊さ」話す



▲子供たちと記念撮影（右上）、講演会のようすとデーブ大久保さん（下段）

元読売巨人軍のデーブ大久保さんを招いて行われたスポーツ講演会は、3月9日村公民館で行われました。

村内のスポーツ少年団員や野球連盟の関係者、一般合わせて約200人が聴講に訪れたこの講演会では、「野球と人生の

キャッチボール」を演題に、デーブ大久保さんご自身の野球人生などについて講演がされました。講演の中でデーブさんは、プロになってからの苦労話や、巨人軍の同僚の話をしながらユーモアたっぷりに話を進め、また巨人軍村田捕手のお子さんの交通事故を話し、命の尊さについて語っていました。

講演終了後はサイン会が行われ、子供たちは持参したボールや帽子にサインをねだったり、デーブさんと握手をしたりしていました。さらに、この日の入場者の中から抽選でサインボールとサイン入りの著書がデーブさんからプレゼントされました。

こころのぽけっと

「道ぶしん」

飯館村は見渡す限り山ばかり。

新緑や紅葉の時はとてもきれいですが、あちこちの道路に木がかぶさっていて危険な時もあります。特に冬は凍結路の一番の原因にもなっていて「切って欲しい」という要望が多くありました。村で切れないなら自分たちで……と皆さんからの提案で立木伐採事業がスタートして今年で3年目。

溝上げ、草刈りなどいくつかの事業を組立て「村民と行政の協働の村づくり」を進めているところです。

これまでの右肩上がり、進んでいる市町村はこのような事業をいろいろやり始めているようです。わが村もさらに進めて、少しでも少ない経費で効果のある仕組みをつくっていかねばなりません。

行政区で道路の立木を切り、とても見通しが良く、またさわやかな道路になっているところが村内のあちこちで見受けられるようになりまし。これはとても素晴らしいこと、大切なことであります。

そこで今年から舗装事業を加えることにしました。材料は村でもちます。条件さえ合えばあとは皆さんのやる気と協力で舗装ができるという事業です。これらの事業は全て村民の皆さんの、熱意の賜以外の何ものでもありません。

合併するにしろ、しないにしろ、わが村をさらに住み良い地域にするには、この「自主自立の運動」が必要不可欠になってきます。村ではこの事業の他に農道砂利敷、側

「いいたて道ぶしん事業」……こんな名前で胸を張ってみてはいかがでしょう。

平成15年3月26日
飯館村 菅野 典雄

男女共同参画社会を考える

11

前回はジェンダーチェックをしていただきましたが、いかがだったでしょうか？ 今回も引き続き、ジェンダーについて考えていきましょう。

「ワタシは「女」だから、こうしなきゃ。ボクは「男」だから、こうあるべき……」

日常生活の中で、何となく「男女の役割」に縛られていると感じたことはありませんか。

「男は仕事、女は家庭」「男らしく、女らしく」といった性別による固定的な役割分担意識や思い込みは、まだまだ社会に根強く残っているようです。

でも、お互いが性別にこだわらず、それぞれの個性が発揮できる「男女共同参画社会」であれば、生活もより豊かで実りあるものになるはず。一人ひとりの意識が変われば、社会も変わります。あなたがあなたらしく生きられるように、身近でできることから始めてみませんか。そうすれば、もっと楽しく、もっとうまくいくことがたくさん見えてくるに違いありません。

【家庭編】

アナタのまわりでこんなことはありませんか？

○料理や掃除など家事一般は妻の役割だと思っている夫が多い。

○共働きの場合、家事もこなし、忙しく働いているのは女性が多い。

○男がゴミ出しなんて恥ずかしいと思っています。

○育児、子供の教育は妻に任せきり。子供の学校行事には妻が行くのが当たり前だと思ってしまう。

○夫は「忙しい」を連発して、休日はほとんど寝ている。

○大きなお金が動くときは夫が決めてしまうことが多い。

○親の介護のためには、女が仕事を辞めるのは仕方がない。

ちょっと立ち止まって、自分の生活を振り返ってみることは大切です。そして、家族で話し合ってみましょう。新しい自分の生き方が見えてくるかもしれません。

飯館駐在所に柴田巡査部長が着任

原町警察署飯館駐在所

に3月17日付けで柴田栄正巡査部長が着任しました。



▲この度着任した
柴田部長

柴田部長は福島市の松川町出身、飯館駐在所に着任前は、福島県警本部の生活安全企画課ハイテク犯罪対策室という、主にインターネット犯罪等の対策を行

う部署に勤務していました。駐在所勤務は3年前の新天地（新地町）・大野（相馬市）駐在所以来2年ぶりとのこと。

柴田部長は、今後の目標を「人と人とのつながりを大切にしなが、交通事故防止や犯罪の抑止に住民の方たちと一致協力してがんばりたい」と話していました。

株菊池製作所に企業立地奨励交付金

働く場の確保のために

3月18日、株式会社菊池製作所に村から企業立地奨励交付金が交付されました。

間建物等の固定資産税が免除されることとなります。今回の交付は、4年前に草野中学校跡地に立てられた、同社の第5工場に対し交付されたもので、

この日は菊池功社長はじめ吉澤正英総務部長、そして菊池紀統工場長らが村長室を訪れ、菊池社長に村長から交付金の目録が手渡されました。



交付金を受けとる
菊池社長（写真中央）▲